

A—34 貧血に関する研究(第2報)

—僻地農村の主婦及び妊婦の貧血と 栄養摂取について—

岩手大教育 ○及川 桂子
赤沢 典子
鷹觜 テル

1. 第1報において県北農村の学童の貧血状態と栄養摂取との相関について検討し、加えて動物試験による米の鉄利用について報告した。今回は特に僻地農村の主婦及び妊婦の貧血と栄養摂取並びに食糧構成との相関について検討し、更に動物試験により二、三の食品の鉄利用度について検討したので報告する。

2. 県内僻地農村の主婦 118 名につき昭和43年10月に貧血並びに食事調査を行った。又県北農村の妊婦については昭和44年5月から45年5月迄の1年間延 1,073 人を対象に妊娠月別・季節別に調査した。

食事調査は国民栄養調査に準じて行い、貧血調査は岩手医大の協力により肘静脈から 2 ml 採血して血色素、赤血球数、ヘマトクリット値及び血漿蛋白値を測定した。

動物試験では貧血にした成熟白ネズミを使用し、鉄給源食品、蛋白レベル及び V.C レベルをかえて3週間飼育し、血色素を測定した。

3. 僻地農村の主婦の約60%が貧血状態にあり、このうち小宮値の棄却限界以下の強度の貧血者が11%あった。

妊婦も貧血者が非常に多く、妊娠月別では後期に増加の傾向がみられた。季節別では夏期に血色素が増加する傾向がみられた。

動物試験では高蛋白群及び V.C 添加群の血色素が著しく増加した。